

大規模養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ発生に備えた出張型防疫研修

兵庫県和田山家畜保健衛生所

○村上歩 岩木史之 鈴木雅和 八巻尚

防疫作業従事者（従事者）に対し、高病原性鳥インフルエンザ発生時における防疫作業の理解と練度を高めるため、駐車場等を用いて効率的な防疫研修ができる「出張型防疫研修セット（研修セット）」を考案、但馬県民局和田山庁舎（庁舎）にて防疫研修を実施した。研修セットは屋内施設（健康調査会場、防護服脱着室）と模擬農場（模擬鶏舎、防護服着脱場、退場消毒施設）からなり、一連の防疫作業が体験できるようにした（図1）。

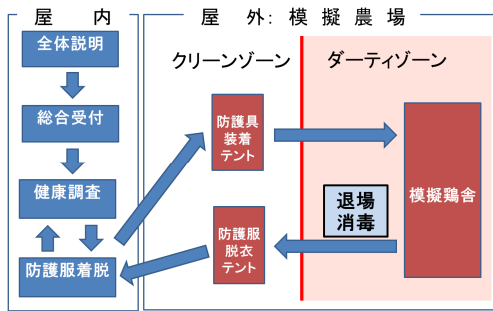


図1 防疫研修セット概要

本年度の防疫研修は庁舎建物内に屋内施設、駐車場（17m×32m）に模擬農場を配置した（図2）。



図2 防疫研修セット設置の様子

模擬鶏舎は管内最大採卵鶏農場（ウインドレス鶏舎42万羽飼養）をモデルとし、鉄材を組み合わせて直立多段ケージと狭い通路幅を再現し、各ケージに採卵鶏と同等重量の模擬鶏を配置した（図3）。

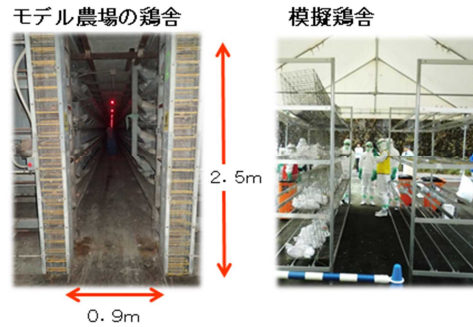


図3 模擬鶏舎とモデル鶏舎の比較

事前にモデル農場の鶏舎構造を市販の足場用金属パイプを用いて再現し、鶏舎構造に合った殺処分の作業手順と必要資材を検討、作業効率の改善を図った（図4）。

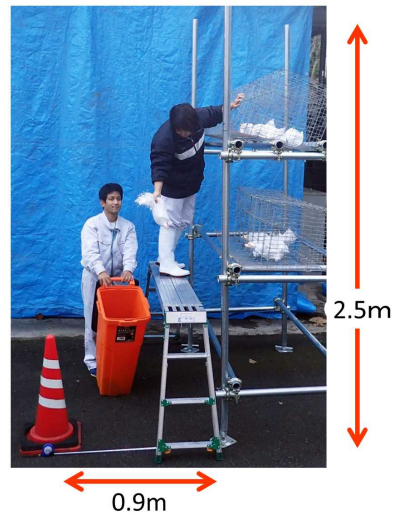


図4 事前検討の様子

防疫研修当日は従事者から殺処分作業者（作業者）1班16名×2班（32名）と作業補助者（補助者）8名とし、残りを見学者とした。家畜防疫員のうち2名を農場統括者と殺処分統括者とし、その他2名を防疫リーダーとし各班に1名ずつ配置した。マニュアルの通り、各テントに家畜防疫員と作業補助者、農場統括者と殺処分統括者を配置し、見学者に対して作業内容を説明する防疫員も配置した。農場統括者、殺処分統括者は赤色のビブスを着用し、その他の家畜防疫員は黄色のビブスを着用した（図5）。

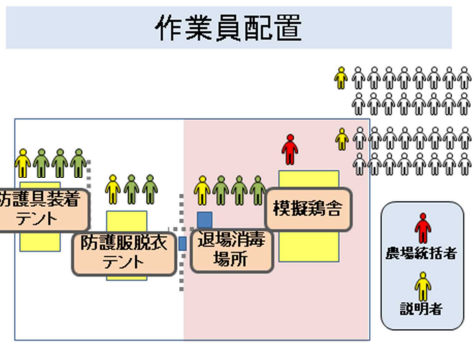


図 5 作業員配置図

#### 【防疫研修実施内容】

- ・ 屋内施設における作業  
 庁舎入り口の受付場所で受付し(図 6①)、健康調査を受けた後(図 6②)、防護服着脱場(図 6③)で防護服を着用した。



図 6 屋内施設

- ・ 防護具装着テントにおける作業  
 家畜防疫員が拡声器を用い作業者に着衣手順を説明し(図 7①)、防疫リーダーが実際に着衣手順を示した(図 7②)。作業者は補助を受けつつ着衣した(図 7③、④)。



図 7 防護服着衣テントにおける作業

- ・ 模擬鶏舎での殺処分訓練の実施  
 防護服着衣後、作業者は模擬テントへ移動した。防疫リーダーが 16 名の作業者をマニュアルのとおり、捕鳥班、輸送班(図 8①)、二酸化炭素注入者(図 8②)、移し替え班(図 8③)に振り分け、作業統括者および防疫リーダーが作業の指示を行った。捕鳥班は作業台を用いて高段ケージから鶏を引き出し、キャスターペールに投入した。幅の狭いキャスターペールと作業台を用いることで、90cm という幅の狭い通路でもすれ違いが可能となり、作業者は 15 分間の作業によりスムーズに殺処分作業を行うことができるようになった。

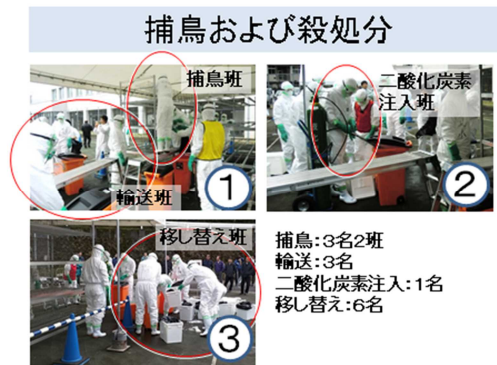


図 8 模擬鶏舎における作業

- ・ 退場消毒の実施  
 殺処分作業後、作業者は退場消毒場所で消毒を行った後(図 9①、②)、マニュアルに準じて、衛生的に防護具と外側防護服を脱衣しフレコンバックへ廃棄した(図 9③、④)。



図 9 退場消毒・防護具脱衣作業

- ・ 防護服脱衣テントでの作業

作業者はクリーンゾーンへ移動後、内側防護服を脱衣し (図 10①)、新しい防護服を1枚着衣した後 (図 10②)、サンダルを履き、農場から屋内へ移動した (図 10③)。この後、作業者は防護服着脱場所で防護服を脱ぎ、健康調査を受けた後、アンケートに回答した。



図 10 防護服脱衣テントでの作業

- ・ アンケート結果

アンケートは作業者 32 名、補助者 8 名、見学者 31 名に対し実施した。結果、防護服の着脱や、殺処分作業についてほとんどの参加者が防疫作業への理解を深め (図 11①、②)、85%の参加者が今回の研修が自信につながったと答えた (図 11③)。

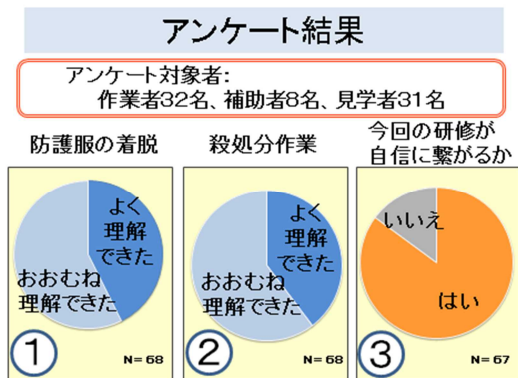


図 11 アンケートの結果

また、防疫員の声が聞こえにくい、細かな指示の伝達が困難という意見や、防護具・防護服のサイズが小さく、大きな防護服を準備して欲しいという意見、スムーズな防護服着衣のための手順を検討する必要性などが提起された。作業側からも問題

点の指摘が出たことは、今回の防疫研修のリアリティの高さや、理解しやすさを示していると考えられた。

研修セットを用いて、多数の従事者が勤務する庁舎を会場としたことで、研修参加人数が増加した。また、実際の発生を想定した模擬鶏舎等での防疫作業を通じて、従事者の防疫作業への理解が深まり、家畜防疫員も従事者へ指揮する機会を得た。

研修セットは模擬鶏舎施設が変更可能で多彩な鶏舎構造に対応の防疫作業に対応が可能である。今後は様々な構造に対応した防疫研修を実施し防疫体制の向上を図りたい。